
ある春の日の出来事

広崎咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある春の日の出来事

【Nコード】

N3263S

【作者名】

広崎咲

【あらすじ】

ソラモトベルハズ。

「いやー、だからさ、飛べるんじゃない？空。」

Ｌは空を指差しそう言った。

春風がそよそよと吹きぬける小高い丘の上でＬとＫは兄弟そろって、暖かな陽光を浴び寝転がっていた。

「え？」

Ｋはまた兄貴が突拍子もないことを言い始めたぞ、と警戒する。

「ほら、見てみるよ。」

ＫはＬの視線を追って空を見上げてみる。そこには一羽のオオワシが高らかに羽ばたいていた。

「大きな鳥だな。」

「鳥が空を飛べるのに、俺が飛べんはずがないだろう！」

Ｌは自信満々に言い放った。Ｋはげんなりする。ダメだ。もう止められない。

「あのさ、大鷲には翼があるんだけどさ、兄ちゃんにはないよね。」

一応やんわりと言ってみる。だが、Ｌの勢いは止まらない。

「ないなら、作ればいいさ。弟よ、あんな風に空を飛べたらどんな気持ちがいいかわかるか？」

「…分からないよ。」

「当たり前だ！なぜなら、空を飛んだものの気持ちは空を飛んだ者にしかわからないからだ。」

当たり前前のことを、と思いつつもＫは起き上がり、ズボンについた草を手で払う。少し、春の匂いがした。

「じゃあ、飛んでみよっか。空」

ＫのことばにＬは真夏の太陽のようにぎらついた笑顔を見せる。そして、さっと立ちあがり、大空に向かい叫んだ。

「アイイ、キヤーン フラァーイッ！！」

そして、兄弟２人は丘を駆け下り、自分たちの家へと向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3263s/>

ある春の日の出来事

2011年10月7日17時22分発行